

耕畜連携による牛の放牧を利用した 農地保全の取り組み

～集落放牧で、農地保全と新規肉牛経営参入への可能性を拡大する～

大田地方は県内でも特に牛の放牧が盛んな地域である

H20 肉用牛農家戸数 146戸
○放牧実施農家 65戸 (45%)
○放牧実施頭数 685頭 (約87%)
○放牧面積 220ha

放牧の主なメリット

- ・飼養管理労働の省力
- ・飼料費の低減
- ・牛の健康管理
- ・農地保全・・・等々

放牧のシステム化段階

第1段階(既存システム)

有畜農家が耕種農家の土地で放牧(水田放牧等)を実施
→有畜農家が家畜及び放牧場を管理

第2段階(近年、特に推進中のタイプ)

耕種農家・集落が有畜農家の牛を借り受け放牧(水田放牧等)を実施
→耕種農家が家畜及び放牧場を管理
※集落放牧には無畜集落の有畜化、集落営農による後継者育成の可能性

過疎化・担い手不足により
進行する耕作放棄地の解消に向けて！

役割分担

「大田地方農林業振興協議会・畜産部会」
により連携・調整

- 市：放牧組合の結成調整
- JA：有畜農家団体との調整
- 家保：衛生面からの放牧支援
- 普及：研修活動、各機関調整



集落放牧の目標

大田地方の放牧の取り組みを連綿と続く地域の財産として、集落型として定着させ、後継者育成・Uターン者の就農に役立てる

(西部農林振興センター県央事務所 農業普及部大田支所 TEL 0854-84-9707)